

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	874200413		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム 千代川さくら館 1		
所在地	下妻市五箇574番地		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigvosyoCd=0874200413-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成29年4月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

力を入れている点、アピールしたい点は、3点あります。まず入居者と一緒に土づくりから行った野菜を献立に織り交ぜながら、お年寄りの“幼い頃の味”を大切に、一緒に調理して食していることです。また、その献立は、併用している特養の管理栄養士に栄養チェックしてもらっているので安心です。摂取量もチェックして、脱水や低栄養状態、過栄養にならないよう注意もしています。次に入居者とその家族、職員の笑顔と笑い声が絶え間の無い事業所であることです。入居者とその家族、職員の昔ながらの“なじみの関係”を築き、一人ひとりを大切に、共に支え、助け合い、いたわりあいながら暮らしています。最後に入居者の入浴は、できるだけ希望に沿い、2日に1回は入っていただくようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者は田園に囲まれた自然豊かな場所に立地し、広々とした敷地に通所介護事業所と特別養護老人ホームが併設されており、お互い連携や協力が取れるようになっている。利用者は四季の移り変わりを日々の生活の中で感じるとともに、自家菜園で収穫した四季折々の新鮮な野菜を収穫して食べる喜びを感じることができる。管理者は職員と日頃からコミュニケーションを図り、何でも話せる人間関係を築くなど、風通しの良い働き易い職場の環境づくりに努めている。職員は家庭的な雰囲気の中で、利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしい生活ができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を管理者および職員は職員会議等で確認し周知している。ご利用者の視点に立ち、その思いを常に考えたケアを計画し実践、その振り返りをケース検討会議、職員会議で話しあって、必要ならば介護計画の見直しを行うなど、共通理解のもとご利用者を支援している。	理事長をはじめ管理者と職員全員で話し合っ て決めた理念を、事業所内に掲示するととも に、折を見て理事長が理念について話をし、 共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。たとえば、周辺の散歩、地域のお祭り、買い物等を通して地域の人との交流し顔なじみの関係をつくり、更に積極的に地域のボランティアの慰問を招き交流を図っている。	自治会の祭りで子どもみこしが事業所に立ち寄り、利用者や交流したり、散歩時に地域住民と挨拶を交わしている。地域の専門学校のペット科の生徒とペットを受け入れ、アニマルセラピーを体験している。楽器演奏やフラダンス等のボランティアの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア慰問による演芸会を地域交流スペース又は施設駐車場で開催をし、地域代表の方に事前に連絡をして、地域の方々をお招きしてに参加して頂いている。認知症高齢者の方々と一緒に参加し、ふれあいの機会を設けて認知症への理解やいざという時に支援を頂けるようなじみ関係を築いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表者、地域代表者、行政の方に参加して頂いて2ヶ月に一回開催している。「さくら便り」を発行し、ご利用者の日頃の生活の様子をお伝えして、皆さんから率直な意見をお話し頂ける場として有効に活用させて頂いている。行政の方、地域の方から行事や防災、感染症の情報を得ている。	運営推進会議では行事や利用者の状況報告、外部評価の結果や課題について話し合われている。地域包括支援センター職員から、「障がい者に対する災害対策マップ」を作成してはどうかとの意見を受け、市役所が作成してくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の空室状況、感染症の予防に関する情報提供、ケアサービスの取組を積極的に伝え、地域の感染症の状況、催し物の情報を提供して頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議時に情報交換を行ったり、併設の特別養護老人ホームの施設長が、市の窓口を訪問した際に事業所の情報を伝えたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除に関するマニュアルが作成されており、職員は年7回、併設の特別養護老人ホームと合同で行われる研修に参加して、身体拘束をする弊害について理解する機会を持っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について、外部研修又は内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる様にファイルにして事務所に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について、外部研修又は内部研修に参加して学習機会を持っている。また、その内容を職員会議において、参加しなかった職員にレクチャーし、その資料を職員がいつでも活用できる様にファイルにして事務所に保管している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご利用者とそのご家族に口頭と文書を持って十分説明し、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解していただいたことを確認し、納得した上で同意のサイン、捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価を行い、その結果を閲覧できるように玄関に配置している。家族が集まりやすいクリスマス会を開催し、その際に満足度アンケートを実施し家族の思いを確認する機会を持っている。2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族側から率直な意見を貰っている。又ご家族に自由に記入できる意見箱を玄関に設置し、それらを運営に反映させている。	家族等に無記名の満足度アンケートを行ったり、イベント時に直接意見を聴くなどして、職員が把握し運営に反映している。重要事項説明書の中に苦情相談受付窓口の連絡先として第三者機関の連絡先を明記するまでには至っていない。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口の連絡先として、国民健康保険団体連合会などの第三者委員を明記することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を受け入れやすい雰囲気と関係を構築している。打ち合わせにおいて、職員は率直な意見を言える機会を設け反映させている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員会議時や職員面談時に意見を聴くようにしている。職員から出た意見は迅速に運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、給与水準、労働時間、やりがいなど職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的にすすめている。月1回の法人内で研修する機会や外部研修に参加させるなどして、職員一人ひとりがスキルアップができる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が特養千代川さくら館との交流・合同研修会等で他の地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、情報交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの生活に慣れて頂くのではなく、ご本人が困っていること、不都合に感じている部分を改善していき、ご本人に向き合い、困っていること、不安なこと、ご要望等によく耳を傾け、ご本人のお気持ちに寄りそうことで、ご本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスのご利用を開始する段階で、ご家族等が困っていること、不安なこと、ご要望等をこちらから尋ねるとともに、真摯に耳を傾け、信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスのご利用を開始する段階で、ご本人とご家族との話し合いをもち、耳を傾け、その話の中で「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人を介護される一方の立場に置かず、ご本人らしさを大切にし、ご本人のこれまでの暮らしの中から学び、温かな家庭的な雰囲気になる様に努め、労わり合い、支えあう事で、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族を支援される一方の立場に置かず、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご本人の馴染み等を教えて頂き、ご家族のこれまでの生活を労い、これからの生活を前向きに捉えて、ご本人と共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで使い慣れた物、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、電話などの連絡の支援に努めている。ご家族様が面会に訪れた際もご親族の方が気兼ねなく訪れる事が出来る様にさりげなくお声掛けさせて頂いている。 また地域のボランティアさんが慰問に訪れた際にもお会いになれる様に努めている	家族等と一緒に、馴染みの理美容室へ行ったり外食や墓参りをするなど、関係が途切れないような支援を行っている。 面会に来た友人、知人にはお茶を出し、ゆっくりと話ができるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、また集団生活の中で個々が埋没しない様にご利用者同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、また集団生活の中で個々が埋没しない様にご利用者同士が楽しく関わり合い、お互いに支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設やご自宅に戻るなどしてサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、サービス利用時の問い合わせ等ご本人やご家族の求めに応じて経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を普段から耳を傾ける様にして、把握に努めている。困難な場合は、ご本人の視点に立つて検討し、ご家族の協力をお願いしたり、職員の関りを見直したりして希望、意向に沿うようにしている。	利用者の表情や仕草、態度等から思いや意向を把握し、口頭で申し送りを行い、職員間で共有し、職員会議で周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を、ご家族の面会時にお聞きし、ご本人からは入浴のリラックスした時や、さりげない会話の中で把握に努めている。 またセンター方式の記入をご家族に依頼し、情報を収集する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。起床時のご様子、朝のバイタルチェック、食事や排泄状況などから把握し、注意すべき事柄があれば申し送りをし、職員間の連携を図る事で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のより良い暮らしにつなげる為に課題とケアのあり方について、ご本人、ご家族、必要な関係者とケース検討会議、家族の面会時等で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、ご本人を中心とした現状に即した介護計画を作成している。又ご本人らしさを尊重するようなケアを考慮しご本人の思いを映し出した介護計画を立てる様に努めている。	利用者や家族等の意向を踏まえ、計画作成担当職員が作成した介護計画案を基に、医療関係者の意見を参考にしながら話し合いを行い、計画を確定している。介護計画の短期目標期間としている3ヶ月毎に、モニタリングと評価を行って計画を見直すとともに、利用者の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録（介護記録）に記入し、職員間で情報を共有しながら（職員会議・ケース検討会議にて）、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（個別ケア：外出、なじみの店への外食、買い物など）に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化（個別ケア：外出、なじみの店への外食、買い物など）に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が開催する催し物（菊人形、ポピー祭り、市の文化祭など）を把握し、ご利用者が参加できるよう支援している。また地域の保育園児との交流を楽しんだり、消防署と合同開催する消防訓練に参加するなど豊かな暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人及びご家族等の希望を大切に、入居前から馴染みのかかりつけ医に受診することができる。納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の医師による訪問診療が2週間に1回あるが、これまでのかかりつけ医を受診している利用者もいる。付き添いは職員が行っている。家族へは変化があったときに報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得られることができる。そのため、個々のご利用者が適切な受診や看護を受けられるようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設した特養とともに週に1回、回診日があり、必要ならば受診できる体制づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階からご本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者・ご家族と共にチームで支援に取り組んでいる。また、職員の不安を解消するため、研修の充実を図っている。	看取りに関する指針があり、家族等に説明を行い同意書を得ている。 重度化や終末期に関するマニュアルがあり、職員は内部研修を行うとともに、外部研修にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルをもとに、シュミレーションしている。具体的には、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努力している。 また感染対策用の専用の物品を用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わずご利用者が避難できる方法を全職員が身につける事が出来る様に、月1回の避難訓練の実施や緊急連絡網の訓練を実施している。また地域との協力体制を築いている。	火災訓練以外にも夜間や地震を想定した避難訓練を行い、訓練の記録を作成するとともに反省会を行い、課題について話し合いをしている。 備蓄品と一覧表は法人が管理している。 毎月自主的な訓練を行っているが、地域住民や消防団が参加するまでには至っていない。	引き続き運営推進会議を通して、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう取り組むとともに、災害時に地域の消防団と連携が取れる仕組み作りを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日々の中でふれあいを持ち、いたわり合う気持ちを大切に、思いやりをもって接している。	職員はプライバシーに関する内部研修を行い、人格の尊重に関する理解を深めている。利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけに努めるとともに、個人情報に関して責任を持って管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人が思いや希望を表したり、自己決定ができるように、普段から何事にも否定せず、気兼ねなく話せる様に努め、希望を引きだせるよう働きかけて、その思いに沿う様に支援を努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先し職員側の決まりや都合に合わせるのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し、その人らしい暮らしができ、その方が輝けるよう目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれ（理髪、毛染め、買い物、）ができるように支援している。その方のこだわりを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、ご利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。中庭で一緒に作った畑の野菜などを調理して食事する事でより楽しめるよう努めている。馴染みの店への外食なども実施している。	食事は、職員全員で利用者の嗜好に合わせた献立を工夫して立てている。利用者は食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。クリスマスにはスポンジケーキを買って、利用者と家族等が飾り付けを行うなど、季節に応じた行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、嗜好、習慣に応じた支援をし、食事量水分量を記録し確認している。又、かかりつけの医師より水分制限の指示がある方はそれに従い、水分量を適切な量で摂って頂けるよう声掛けして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。口腔内に食べかすが残り、寝ている間など誤って肺に入り、それが肺炎につながるように口腔ケアを努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らし、失敗を未然に防ぎ、ご利用者が傷付かない様に配慮している。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄の不安を緩和できるように努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表等を活用し、利用者一人ひとりに合わせた排泄介助を行うことで、おむつを使用していた利用者が布パンツとパッドに移行し、トイレでの排泄が可能となった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や毎日の運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 状況が改善しない場合は医師に状態を相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、また個々の好みの浴槽の温度調整、入り方を尊重して、ご要望に応じて対応し、入浴を楽しむことができるよう支援をしている。	入浴は週3回午前中を基本としているが、利用者の希望に合わせていつでも入れるように支援している。 手足の冷える利用者にはいつでも温められるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。寝つきが思わしくない時には眠くなるまで職員が側にいて不安を軽減出来る様に努めている。認知症や廃用性症候群が進行しない様にご本人の思いを尊重するよう自由な生活時間を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について処方箋をファイルにし管理し理解している。服薬支援については細心の注意をはらって確実に服薬を確認している。また特養の看護師および処方して頂いているそれぞれの病院と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。歌が好きな人にはCDや歌帳を用意し、月に一度は書道を行い、買い物同行や季節の催し物への外出の機会を設けている。農作業が好きな方は施設の菜園で職員と共に収穫作業をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、日常のお話の中からご本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	日頃から散歩に出かけ、近隣住民や畑作業をしている人と挨拶を交わしている。 年間行事計画を立てて、車いす使用の利用者も一緒に季節毎の花見等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。外出の際は、金銭の間違いがないように必要に応じた見守りなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族や大切な人にご自身で電話をしたり、又は電話でお話が出来る様に職員が間に入るなどの支援をしている。また手紙のやり取りができるように宛先の代筆の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室および食堂は一般家庭照明を用い窓の日差しはカーテンなどで調節し、職員もゆっくり話すなど、音の大きさや光の強さに配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。玄関や食堂に四季の花があり、ご本人及びご家族にとって親しみやすく安心して出入りできる。毎日掃除を実施し衛生的で清潔な共用空間づくりに配慮されている。	玄関や廊下には利用者が作成した季節を感じさせる手作りの作品や俳句、写真が飾られている。居間兼食堂は南側に面しており、とても明るい空間となっている。そこからサンデッキ、中庭に続いており、自由に外気浴や花や野菜の手入れができるようになっている。浴室は浴槽が2つ設置しており、脱衣場も程よいスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合ったご利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。将棋や歌の好きな方々のテーブルを作ったり、ペランダ、玄関にベンチを用意しそれぞれがお好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お布団等の寝具はご家族に相談しながら使い慣れた物や好みの物を持参して頂き使用してもらっている。今までご本人が使用していたものや思い出の品などを持参して頂いて、ご本人らしく居心地よく過ごせる工夫をしている。毎日消毒清掃を実施し、衛生的で清潔な居室に配慮されている。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン、整理筆筒が備え付けられており、寝具は利用者が使い慣れたものを持ち込んで使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、廊下は車椅子がゆったり通れる広さが確保されており、高齢者に使いやすい位置に手すり、コンセントなどがつけられている。自動火災報知通報装置設備のほか安全に暮らせるよう工夫されている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム千代川さくら館

作成日 平成29年6月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	重要事項説明書に苦情相談受付窓口の連絡先として、国民健康保険団体連合会などの第三者委員を明記する事を期待するとの事。	ご家族の率直な意見の連絡先として重要事項説明書の苦情相談受付窓口の連絡先に第三者機関の連絡先を明記する。	重要事項説明書の苦情相談受付窓口の連絡先に、第三者委員として国民健康保険団体連合会の連絡先を記載します。	1ヶ月
2	35	運営推進会議を通して、避難訓練に地域住民の参加が得られるよう取り組むと共に、災害時に地域の消防団と連携がとれる仕組み作りを期待するとの事。	災害等の方が一の緊急時には地域の消防団に駆け付けて頂ける様に協力を仰ぎ連絡先を緊急連絡網に記載する。	運営推進会議を通して、避難訓練に地域住民に参加していただく共に、災害時に備えて、地域の消防団の協力を依頼し、連絡先を緊急連絡網に追加記載します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。